

事業の背景・目的

藺牟田池は国内希少野生動植物種のベッコウトンボをはじめ多くの野生動植物が生息し、ラムサール条約に登録されたが、高齢化による環境保全活動を行う人材の減少と、継続的な環境保全活動の資金調達が困難な状況により環境保全活動が衰退し、ラムサール条約登録時点と比較し生態系や生態系を取り巻く環境が大きく変化した。本事業ではこれらを踏まえ、「グリーンインフラ」の手法を活用して持続的な環境保全活動を行う仕組みを構築し、ラムサール条約登録湿地として評価された時点のベッコウトンボの生息環境改善に資することを主目的とする。

事業の内容

事業① 藺牟田池グリーンインフラアクションプラン策定

- ・環境保全活動が衰退の要因である高齢化による人材の減少と、継続的な資金調達の課題を解決するため「藺牟田池環境保全グリーンインフラアクションプラン（行動計画）」を策定した。

事業② 生態系と営農の共存

- ・生態系が生息している場所としての藺牟田池と、農業用ため池としての藺牟田池の共存を図るための調整を行った。

事業③ 広報、周知活動

- ・小中学生の夏休み期間中に外来魚駆除釣り大会を実施し、レジャー感覚で環境保全活動に貢献できることを体験していただき、ベッコウトンボを捕食する外来魚の駆除の必要性を周知した。
- ・藺牟田池のガイドブックを作成し、藺牟田池の貴重な生態系について周知を図った。

得られた成果

- ・グリーンインフラの手法を活用し、藺牟田池のアクティビティを活用した有償の自然観察会等の資金を環境保全活動に充当するための行動計画が作成できた。
- ・生態系と営農の共存では、これまでの水位情報と雨量情報をもとに地元営農団体と円滑な協議が図られた。
- ・外来魚駆除釣り大会は、149名の参加者があり、テレビでも取り上げられ、藺牟田池の外来魚の問題等環境保全に関する周知が図られた。